

第10章 内部質保証

1. 現状の説明

(1) 大学の諸活動について点検・評価を行い、その結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしているか。

本学では、学長の下、大学評価委員会において、大学の諸活動について自己点検を毎年適切に実施し、その内容を東海大学教育研究年報として、次年度にまとめ、HPで社会に公表している。また、本学の第Ⅱ期中期目標（2014から2018年度）に沿ったミッション・シェアリングシート（MSシート）を作成し、各部署の目標と諸活動を点検している。

(2) 内部質保証に関するシステムを整備しているか。

本学では、毎年、大学評価委員会の下、大学評価委員を中心に各部署から選出された相互点検者を選出し、MSシート及び東海大学自己点検・評価報告書の点検を行う内部質保証システム（財務情報を含む）を整備している。

(3) 内部質保証システムを適切に機能させているか。

大学評価委員会の下、大学の点検・評価を行った後、大学諸活動の優れている点と課題を抽出し、毎年、学長・副学長に大学評価委員会報告書として答申している

2. 点検・評価

評定 A

基準2の充足状況

2014年度も、学長の下、大学評価委員会において、大学の諸活動について自己点検を毎年適切に実施し、その内容を東海大学教育研究年報として、また、財務状況について、次年度にHPで社会に公表した。また、本学の第Ⅱ期中期目標（2014から2018年度）に沿ったミッション・シェアリングシート（MSシート）を作成し、各部署の目標と諸活動を点検した。さらに、これらの結果は、学長・副学長に東海大学大学評価委員会答申として報告した。これらのことにより内部質保証に関するシステムが適切に機能している。

① 効果が上がっている事項

単年度での自己点検・評価活動が定着しており、各学部において、報告書の作成が以前よりも容易になるとともに、課題の抽出方法もより明確になってきている。

② 改善すべき事項

自己点検活動が、PDCAサイクルにつながり、次の改善につながっていくのかどうか、教職員に対して、その手法や内容、重要性に対する理解をさらに深めていく必要がある。

3. 将来に向けた発展方策

① 効果が上がっている事項

自己点検評価報告活動がより定着するよう、報告書の書式の変更を図り、さらなる自己点検評価体制の見直しを継続していく。

② 改善すべき事項

自己点検評価報告書の結果を次のPDCAにつなげるため、学長・副学長を中心とした体制づくりをさらに強化し、改善につながるPDCAサイクルの具体的体制の構築を図っていく。

4. 根拠資料

根拠資料1. 東海大学大学評価委員会規程

根拠資料 2. 東海大学教育研究年報 HP

http://www.u-tokai.ac.jp/effort/activity/annual_report/

根拠資料 3. 第Ⅱ期中期目標

http://www.u-tokai.ac.jp/effort/activity/middle_aim/

根拠資料 4. MS シート点検説明会資料

根拠資料 5. 東海大学 2014 年度財務情報・事業報告 HP

http://www.tokai.ac.jp/information/financial_data/

根拠資料 6. 2014 年度相互点検説明会資料

根拠資料 7. 2014 年度東海大学大学評価委員会答申